

診療放射線科通信

Vol.15 脳ドック編

発行日：12月
担当：木下/鈴木

脳ドックとは・・・

日本独特の予防医学

脳ドックは**MRI**を用いて、脳に係する疾患の診断あるいは疾患のリスクの**早期発見**などを目的に行われる健康診断の一種です。

治療ではなく、受診時点での脳の状態を観察し、診断を行うものです。脳ドックでは脳血管障害、脳腫瘍などの疾患が診断されることがあります。これらを**早期に発見し、必要に応じた対応をとれる可能性が高まります。**

9月より
新しいMRI装置に
更新されました！

(詳しくはHOSPIA1月号)



MAGNETOM Sola Fit
SIEMENS Healthineers製

このような方に脳ドックをおススメ！

中・高齢者	脂質異常	肥満
高血圧	喫煙	糖尿病
脳卒中の家族歴がある		

これらは「**危険因子**」と呼ばれています。危険という言葉がついていますが、すぐに危ないというわけではなく、**将来的に病気になる可能性が高い要因**のことを指します。

みんなで脳ドックを受けよう！

脳ドックを受ける利点の一つに**生活習慣を見直せる**点があります。健康診断や人間ドックで見つかった危険因子があればそれを踏まえて、生活改善により将来の脳血管障害のリスクを低減できるきっかけになります。

一方、脳ドックを受けて病気がないことを確認したからと言って、その後長期にわたって安心というわけではありません。

健康診断や人間ドックと同様に、ある**一定の間隔で定期検査は必要です！**
(特に異常がなければ2~3年に1回)

脳ドック みんな受けよう 今年こそ**放**

脳ドックで見つかる病気

脳ドックで見つかる主な疾患は、症状を起こしていない脳梗塞や、くも膜下出血の原因となり得る脳動脈瘤、脳腫瘍などです。不安がらずに医師と以後の方針をよく相談してください。

無症候性脳梗塞

画像上脳梗塞の所見があり、病変に該当する症状がないものです。脳梗塞になっても症状がないので日常生活を普通に送っており、脳ドックを受けてはじめてわかるような病変で多くはラクナ梗塞と言われる小さな脳梗塞です。高齢者の10～20%に認められるとされており珍しいものではないですが、将来の脳卒中や認知症の危険因子とされています。

高齢者の
10～20%



ラクナ梗塞

脳動脈瘤

30歳以上の成人において約3%の頻度で認められ、特に高血圧、喫煙、脳卒中の家族歴がある方は注意を要すると言われています。破裂するとくも膜下出血になりますが、破裂率は決して高くありません。発生している部位や大きさで破裂する率が変わってきます。

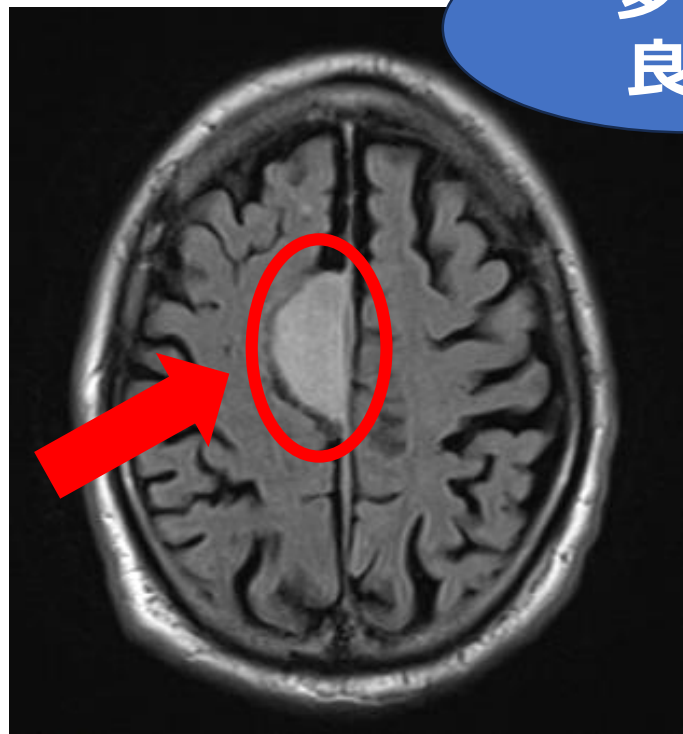


30歳以上
約3%

脳動脈瘤

脳腫瘍

脳ドックで見つかりやすい脳腫瘍は、髄膜腫や下垂体腺腫、神経鞘腫など良性のものが多く、他には神経膠腫という脳から発生した腫瘍が見つかることもあります。



多くは
良性

髄膜腫